

佐賀県立病院好生館

富永正樹

【目的】RNA結合蛋白質である heterogeneous nuclear ribonucleoprotein (hnRNP) B1の、肺がん早期診断マーカーとしての可能性について検討する。【方法】肺組織における hnRNP B1の発現量を RT-PCR, western blotting, 免疫組織化学法を用いて検討する。【結果及び考察】進行期肺がん 43例中 36例 (83%) に hnRNP B1の発現亢進を認め、特に扁平上皮がんの全例 (15/15), また、ステージ I 全例 (14/14) で hnRNP B1の発現亢進を認めた。画像診断上陰性の微小肺がんでは、43例中 25例 (58.1%) に hnRNP B1の発現亢進を認め、がんの進達度と相関する傾向を示した。前がん病変である気管支異形成においても 11例中 7例 (63.6%) に発現亢進を認めた。以上、hnRNP B1は肺がんの初期変化を反映する新しい早期診断マーカーとして有用と考える。

#### 41. カルボプラチン・パクリタキセルによる肺癌化学療法時の血中トロンボエチン値の動態

長崎大学第二内科

笠井 尚, 早田 宏, 末永光宏  
鶴谷純司, 岡三喜男, 河野 茂

長崎胸部腫瘍研究グループ (NTOG)

中村洋一, 福田正明, 木下明敏

【背景・目的】カルボプラチン (CBDCA) + パクリタキセル (PTX) 併用化学療法は、血小板減少が軽度であると報告されている。今回我々は CBDCA + PTX 施行時の血中トロンボエチン (TPO) 値の推移を CBDCA + CPT-11 療法施行時と比較検討した。【対象・方法】CBDCA (Target AUC=5, day 1) + PTX (210 mg/m<sup>2</sup>, day 1) または CBDCA (Target AUC=5, day 1) + CPT-11 (50 mg/m<sup>2</sup>, day 1, 8, 15) を施行された肺癌症例。各群 5 例ずつ施行し、血中 TPO 値と血小板数を測定した。測定ポイントは day 1, 4, 8, 15, 22 で行った。【結果】両群ともに血小板減少に従って血中 TPO 値の上昇が認められたが、CBDCA+PTX 群で、血小板減少に比較して TPO が有意に上昇しているとはいえなかった。

#### 42. 肺癌組織における P-glycopro-

#### tein の発現と <sup>99m</sup>Tc MIBI シンチの集積及び臨床的薬剤感受性に関する検討

九州大学医学部学生

稲永慶太

九州大学大学院医学研究院附属胸部疾患研究施設

石橋里恵, 中西洋一, 出水みいる

井上孝治, 原田大志, 原 信之

同 臨床放射線科学

佐々木雅之, 桑原康雄

【目的】<sup>99m</sup>Tc-Hexakis-2-Methoxyisobutyl Isonitrile (MIBI) は、P-glycoprotein (Pgp) によって細胞外にくみ出しを受けることが報告されている。そこで肺癌患者における <sup>99m</sup>Tc MIBI の腫瘍内集積と、Pgp の免疫組織学的発現について検討を加えるとともに、臨床的薬剤耐性との関連を検討した。【対象・方法】肺癌と診断された経気管支肺生検 (TBB) 85 例、手術摘出標本 15 例の計 100 例 (<sup>99m</sup>Tc MIBI シンチ施行例は 37 例) を対象とした。Pgp の発現は免疫染色にて評価し、<sup>99m</sup>Tc MIBI シンチについては、早期相 (15 分後) 及び遅延相 (120 分後) における集積と、停滞率を求めた。【結果】Pgp の陽性率は 36% であり、Pgp 陰性群の方が、陽性群と比較して <sup>99m</sup>Tc MIBI の停滞率が有意に高かった。また、Pgp の発現と臨床病理学的因子では、組織型および化学療法感受性において有意な相関を認めた。さらに、<sup>99m</sup>Tc MIBI シンチと化学療法感受性の関係についても検討したが、これらについては症例数が少ないこともあり、有意な相関は認めなかった。

#### 43. 当院における光線力学療法 (PDT: photodynamic therapy) の使用経験

佐賀県立病院好生館内科

嬉野紀夫, 杉原 充, 小柳孝太郎

同 外科

古川次男

【目的】中心型早期肺癌の内視鏡的治療として、光線力学療法は本邦の多施設共同の臨床試験ですでに有効性の評価が得られている。当院においても 1999 年 3 月よりフォトフィリン, エキシマ・ダイ・レーザーを使用した PDT を施行したのでその有用性について検討する。【症例】早期肺癌 4 症例, 進行肺癌 1 症例で組織型は全例 squamous cell carcinoma, 全例男性で平均

年齢 72 歳であった。【結果】5 症例中 4 症例で CR が得られ、1 症例にて 4 カ月後に再発をみた。施行後の重篤な合併症は認めなかった。【考察】肺の中心部に発生する微小な癌のために多くの正常肺を切除する摘出術を回避することができるため、中心型早期肺癌に対して PDT は有効な治療法と考えられる。

#### 44. 進行期肺癌に対する Docetaxel+UFT 同時併用の臨床第 I 相試験

九州大学大学院医学研究院附属胸部疾患研究施設

石橋里恵, 中西洋一, 出水みいる

原田大志, 井上孝治, 南 貴博

堀内康啓, 原 信之

【目的】進行期肺癌に対する Docetaxel+UFT 併用療法における Docetaxel の至適投与量を設定し、薬物動態について検討する。【対象・方法】切除不能肺癌 (IIIB, IV 期) 症例を対象とした。UFT を 400 mg/m<sup>2</sup> (600 mg/body を上限) で固定し、Docetaxel を 40, 50, 60, 70 mg/m<sup>2</sup> と段階的に増量、それぞれレベル 1 から 4 とし、各レベルに 3 例ずつ登録した。第 1 日に Docetaxel を点滴投与、以後第 2 から 15 に UFT を経口投与し、21 日を 1 コースとして 2 コースまで行った。最大耐用量 (MTD) は、3 例中 2 例以上に用量規定毒性 (DLT) (grade 4 の造血器障害、または grade 3 以上の非造血器障害) が発生した場合とした。MTD の一つのレベルについて 3 例を追加し推奨用量を設定、薬物動態検査を行った。【結果】レベル 4 にて MTD に達したと判断したので、レベル 3 において 3 例追加したが、3 例中 3 例が grade 4 の好中球減少を認めたため、現在レベル 2 において検討中である。

#### 45. 高齢者非小細胞肺癌に対するカルボプラチン+ビノレルビン併用化学療法—Phase I Study—

雄博会千住病院

土井誠志

長崎胸部腫瘍研究グループ (NTOG)

高谷 洋, 長島聖二, 福田正明

福田 実, 木下明敏, 中村洋一

長崎大学第二内科

笠井 尚, 岡三喜男, 河野 茂

【目的】高齢非小細胞肺癌に対するカ